

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月23日

【評価実施概要】

事業所番号	3070104249		
法人名	有限会社 MURO		
事業所名	グループホーム 太陽のおうち		
所在地	和歌山県和歌山市山口西385-1 (電話) 073-461-6522		

評価機関名	NPO法人認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山県和歌山市四番丁52		
訪問調査日	平成19年10月2日	評価確定日	平成19年10月31日

【情報提供票より】(平成19年9月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 3人, 常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(平成19年9月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1		名	要介護2	7 名	
要介護3	9 名		要介護4	2 名	
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森医院、中西歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園に囲まれた自然豊かな環境にある。1階建てを中央で隔てた2ユニットは建物の構造は同じであるが、玄関から始まり内装や家具、調度品の趣きを変えてあるので、それぞれ違った雰囲気となっている。入居者の安全性とプライバシーの保護に配慮し、すりガラスの使用や防災時対策として各居室を掃き出し窓にするなどの工夫が行き届いている。入居者が互いのユニットを訪問しあっている様子も見られ、食事作りや趣味など入居者が職員と共に普段の生活を楽しんでいる様子が明るい笑顔と和やかな会話の中にかがわれる。「今までの住み慣れた家庭生活をそのままに穏やかで安心できる日々をすごして貰いたい」という管理者の考えを実現するため、建物のみならず介護の質の向上を担う職員の育成にも力を入れている。開放的で、近隣にも施設の機能を提供するなど地域に根ざす取り組みが行なわれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、特に改善の必要な項目はなかったが、常により良いケアに向けて改善していく姿勢を持っている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価のねらいや活用方法についてよく理解し、常にケアの質の向上をめざす姿勢で挑み、自己評価について前向きに取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長・民生委員・家族代表で実施し本音を話せる会議になるよう努めている。会議を開催する中で、地域に向けて認知症に対する理解を深める必要性が認識され公民館等での啓発活動を計画している。和歌山市からの委員の参加が得られなかったので、今後支所に働きかけをしていく予定である。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日々の関わりの中で家族との人間関係を築き意見を表せるようにし、それを運営に反映している。来訪時や事業所のイベントの参加時には、自然に各々家族間の交流が持たれていて家族会の役割が果たせている。入居者の暮らしがわかるような新聞を毎月1回発行し、各家族に向けて個別の手紙を添えて届けている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に未加入なので活動には参加していないが、自治会員である法人代表者を通して自治会ともつながりを持ち事業所独自に地域との交流が行われている。また、代表者が認知症ケアに高い見識を持ち、地域との交流の中で地域住民に認知症の理解を持ってもらえるよう率先して取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各ユニット、事務室に独自に作り上げた理念を額に入れて掲示している。過去3回の見直しを経て現在は地域密着としての理念を踏まえ「その人らしさを大切にして暮らしていく」に重点を置いている。	○	更に、地域の中での暮らしを支えることへの具体的な理念の明文化を示すことが望ましい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は朝と夜勤の交代時に皆で理念を確認・共有し、それを日々のケアに繋げるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないので自治会の活動には参加していないが、自治会員である法人代表者を通して事業所独自に地域との交流が行われている。地域との交流の中で地域住民に認知症の理解を持ってもらえるよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を踏まえ、さらに向上を目指し実践に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、自治会長・民生委員・家族代表者らで実施し、本音を話せる会議になるよう努めている。会議の開催から地域住民へ認知症に対する理解を深める必要性が認識され、公民館等での啓発活動を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に和歌山市からの参加が得られなかったため、今後支所に働きかけをしていく予定である。	○	連携を強めるための支所への働きかけが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりがわかるような新聞を毎月1回発行、それぞれの家族にむけて個別の手紙を書いて添えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で人間関係を築き、意見を表せるようにし、それを運営に反映している。ご家族の来訪時、事業所のイベントの参加時、自然に各々家族間の交流が持たれ、家族会の役割が果たせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者とすべての職員がなじみの関係をつくらせているので、職員が代わる場合も他の職員のフォローで入居者へのダメージは殆んど無く対応できている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日ミニ・カンファレンスを行い日々の気づきを話し合い役立てている。又毎月1回施設内研修(勉強会)を行っている。外部研修にも参加し、県外の場合は日勤扱いで旅費も支給して職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入している。また、平成20年度に向けて他の同業者の希望により管理者の継続勉強会の開催を計画している。	○	平成20年度実施予定の管理者継続勉強会の成果が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度も訪問してもらって、家族ともよく話し合っている。居室にはこれまでのなじみのものを配置するなどしてできるだけこれまでの本人の生活に近い形で暮らせるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が入居者を人生の先輩であるという気持ちを持って生活を共にしている。食事作りや趣味など、一緒に過ごす中で入居者が職員と共に普段の生活を楽しんでいる様子が、明るい笑顔と和やかな会話の中にかがわれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の本人の様子や言葉から意向を汲み取り、センター方式を活用して職員全体で共有できるようにしている。又家族とも十分話し合い本人の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いは日々のミニ・カンファレンスで常に検討されている。家族ともよく話し合い、多くの意見をとり入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度見直し、状態に応じてはそのつど見直しを行っている。計画を変更する場合にはご家族の了解のもと実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の指定を受けている。入居者への自主的なサービスの他、地域で暮らす高齢者への相談支援なども積極的に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を聞き、かかりつけ医の医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所独自のターミナルケア・マニュアルを作成している。入所時に、ご家族を通じてご本人の気持ちを汲み取っている。入所後は、ご家族・かかりつけ医との連携を密にしその時々に応じた方針を職員間で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドに配慮し、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしていない。職員間で周知徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしはどんな暮らしなのか、日々の食事を取るペース等も個々に違うことなど職員間で共有し、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々のユニットで入居者と共にメニューを考え作っている。自然な形で職員と入居者が一緒に準備から調理・配膳・後片付けをしている。職員も一緒に和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食前・後の希望時間に入浴し、好みの入浴剤等を使い楽しんで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の生活歴を把握している。裁縫が得意な人には縫い物をしてもらい、音楽の得意な人にはピアノや大正琴などを弾いてもらう等、その人が輝く場面を考え設定している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・外食・観劇等個人の希望に添った外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	午前7時から午後7時まで玄関・窓はオープンにしている。建物内の死角を図式化し職員が把握しているので、入居者のプライバシーを尊重しながら安全を確保している。職員全員が鍵をかけない意義を認識している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の自主訓練を実施している。職員に対しては抜き打ちにマニュアルの確認を行っている。北消防署、自治会で災害時の協力体制が取れるよう約束してくれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の記録シートに記録し、一人ひとりの状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット毎に、過ごし易く居心地の良いようインテリアも考えられている。各所に季節の花や、手作りの人形・贈呈された絵画が飾られ、季節感や心地よさに配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人のなじみの家具や好みの物品を配置し、その人らしく居心地の良い部屋になるよう工夫されている。		